



# 平成27年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成26年11月11日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社アルファポリス

コード番号 9467 URL <http://www.alphapolis.co.jp/company/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 梶本 雄介

問合せ先責任者 (役職名) 取締役兼管理部部長 (氏名) 大久保 明道

TEL 03-6277-1602

四半期報告書提出予定日 平成26年11月12日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・証券アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成27年3月期第2四半期の業績(平成26年4月1日～平成26年9月30日)

### (1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第2四半期	1,240	—	390	—	382	—	250	—
26年3月期第2四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第2四半期	62.62	—
26年3月期第2四半期	—	—

- (注) 1. 当社は、平成26年3月期第2四半期においては、四半期財務諸表を作成していないため、平成26年3月期第2四半期の数値及び平成27年3月期第2四半期の対前年同四半期増減率については、記載しておりません。
2. 当社は、平成26年8月25日付で普通株式1株につき200株の割合で株式分割を行っておりますが、当事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、平成27年3月期第2四半期の1株当たり四半期純利益を算定しております。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

### (2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%		
27年3月期第2四半期	2,386	—	1,327	—	55.6	
26年3月期	2,054	—	1,076	—	52.4	

(参考) 自己資本 27年3月期第2四半期 1,327百万円 26年3月期 1,076百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	—	—	0.00	0.00
27年3月期	—	0.00	—	—	—
27年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 平成27年3月期の業績予想(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,611	27.6	760	17.6	740	14.9	476	21.1	111.29

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

- ※ 当社は、平成26年8月25日付で普通株式1株につき200株の割合で株式分割を行っておりますが、当事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり当期純利益を算定しております。
- ※ 1株当たり当期純利益は公募株式数(675,000株)を含めた予定期中平均発行株式数により算出し、オーバーアロットメントによる売出しに関する第三者割当増資分(最大168,700株)は考慮しておりません。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

詳細は、添付資料3ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(1)四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
② ①以外の会計方針の変更 : 無  
③ 会計上の見積りの変更 : 無  
④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	27年3月期2Q	4,000,000 株	26年3月期	4,000,000 株
② 期末自己株式数	27年3月期2Q	— 株	26年3月期	— 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	27年3月期2Q	4,000,000 株	26年3月期2Q	— 株

(注) 1. 当社は、平成26年3月期第2四半期においては、四半期財務諸表を作成していないため、平成26年3月期第2四半期における期中平均株式数(四半期累計)を記載しておりません。

2. 当社は、平成26年8月25日付で普通株式1株につき200株の割合で株式分割を行っておりますが、期末発行株式数及び期中平均株式数につきましては、当該株式分割が前事業年度の期首に行われたと仮定して算定しております。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予測に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
3. 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
第2四半期累計期間	5
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	6
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(重要な後発事象)	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間におけるわが国の経済は、消費税の増税や、円安等の市況の影響による物価上昇を背景に個人消費が伸び悩む一方で、政府の景気対策に伴う雇用の底堅さが下支えとなり、国内景気は緩やかな回復基調となりました。

しかしながら、当社が属する出版業界は依然として厳しい状況が続いており、出版科学研究所によると平成26年上半期の出版物の推定販売額は8,267億円となり、前年比5.9%減となっております。一方で、インターネット発の出版物は、引き続き好調であり、縮小する書籍市場内においても着実に成長することが可能となるビジネスモデルとして、市場の注目度は高まってきております。

このような環境の中、インターネット発の出版の先駆者である当社は、編集部員の強化等を行うことにより、インターネット発の書籍化及びその漫画化（二次出版）を加速させることで、当第2四半期累計期間の出版点数は163点となり前事業年度同期比45点増となりました。また、刊行書籍の6割超は発行部数1万部を超えており、一定以上の質も確保することができました。

この結果、当第2四半期累計期間の売上高は1,240,897千円、営業利益は390,829千円、経常利益は382,356千円、四半期純利益は250,482千円となりました。

なお、書籍のジャンル別の概況は以下の通りであります。

#### ①ライトノベル

男性向けライトノベルは、刊行点数を前事業年度同期比17点増となる38点に増加したことに加え、1作当たりの実売平均は約1.6万部という高い売行きを実現することができ、当ジャンルの業績を牽引いたしました。

また、大人の女性のための恋愛小説レーベル「エタニティボックス」、新感覚ファンタジー小説レーベル「レジーナボックス」及び前事業年度に創刊した甘く危険なラブロマンスレーベル「ノーチェボックス」のいずれも、毎月堅調に一定のラインアップが刊行でき、かつ、売行きも好調に推移したことで、業績を安定的に下支えしました。

#### ②漫画

人気シリーズである「ゲート」及び「白の皇国物語」の続編が引続き好調に推移したことに加え、新たに刊行した「Bグループの少年」が発行部数2万部を超えるヒット作に成長し、業績を牽引いたしました。

また、書籍の漫画化も順調に推移しており、当第2四半期累計期間では、新たに「とあるおっさんのVRMMO活動記」や「物語の中の人」など、ライトノベルでは1巻当たり2万部超の発行部数を誇る人気シリーズのWeb漫画連載を開始いたしました。

#### ③文庫

男性向けライトノベルの文庫版として、当第2四半期累計期間に創刊した「アルファライト文庫」の滑り出しが好調であり、今後の業績の下支えが期待できる実績をあげることができました。

#### ④その他

一般文芸として当第2四半期累計期間に刊行した「居酒屋ぼったくり」はシリーズ発行部数累計10万部を超えるヒット作に成長し、当ジャンルの業績を牽引するとともに、ライトノベル以外のジャンル拡大の足掛かりとなる実績をあげることができました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第2四半期会計期間末の流動資産は、前事業年度末に比べ303,698千円増加し、2,334,247千円となりました。これは主に、売上高の増加に伴い売掛金が増加（前事業年度末比275,238千円増）したことによるものであります。また、当第2四半期会計期間末の固定資産は、前事業年度末に比べ28,478千円増加し、52,609千円となりました。これは主に、投資その他の資産が増加（前事業年度末比27,317千円増）したことによるものであり、この増加は本社移転に係る敷金の支払いが発生したことによるものであります。

(負債)

当第2四半期会計期間末の流動負債は、前事業年度末に比べ82,766千円増加し、954,520千円となりました。これは主に、法人税等の支払いに伴い未払法人税等が減少（前事業年度末比40,201千円減）する一方で、売上高の増加に伴い返品調整引当金（前事業年度末比50,622千円増）、買掛金（前事業年度末比24,458千円増）、及び未払金（前事業年度末比55,384千円増）が増加したことによるものであります。また、当第2四半期会計期間末の固定負債は、前事業年度末に比べ1,071千円減少し、105,145千円となりました。これは全て、借入金の返済に伴い長期借入金が減少したことによるものであります。

(純資産)

当第2四半期会計期間末の純資産は、前事業年度末に比べ250,482千円増加し、1,327,190千円となりました。これは全て、繰越利益剰余金の増加によるものです。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間において、現金及び現金同等物の四半期末残高は16,939千円増加し、729,191千円となりました。当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの主な要因は次のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは66,084千円の収入となりました。この主な要因は、売上債権が275,238千円増加し、かつ法人税等の支払額が172,076千円発生する一方で、書籍売上が好調に推移したことにより税引前当期純利益が382,356千円計上されたことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは28,916千円の支出となりました。この主な要因は、本社移転に関わる敷金の支払27,506千円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは20,228千円の支出となりました。この主な要因は、長期借入金の借入による50,000千円の収入がある一方で、長期借入金の返済による66,635千円の支出及び株式公開に係る3,593千円の支出が発生したことによるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績予想につきましては、平成26年10月30日に公表いたしました業績予想に変更はありません。

なお、業績予想につきましては、本資料の発表日現在においてに入手可能な情報に基づき作成しており、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。今後、業績予想の数値に影響を及ぼす事態が生じた場合は、すみやかに開示を行います。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第2四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

3. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成26年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	712,252	729,191
売掛金	1,189,469	1,464,707
製品	68,399	87,925
仕掛品	11,682	8,209
その他	48,744	44,213
流動資産合計	2,030,549	2,334,247
固定資産		
有形固定資産	1,477	2,638
投資その他の資産	22,653	49,970
固定資産合計	24,130	52,609
資産合計	2,054,679	2,386,856
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	56,436	80,895
1年内返済予定の長期借入金	71,040	55,476
未払金	216,601	271,985
未払法人税等	172,338	132,136
賞与引当金	10,521	12,180
返品調整引当金	312,814	363,436
その他	32,002	38,409
流動負債合計	871,754	954,520
固定負債		
長期借入金	105,226	104,155
繰延税金負債	990	990
固定負債合計	106,216	105,145
負債合計	977,970	1,059,665
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	10,000	10,000
利益剰余金	1,066,708	1,317,190
株主資本合計	1,076,708	1,327,190
純資産合計	1,076,708	1,327,190
負債純資産合計	2,054,679	2,386,856

(2) 四半期損益計算書  
(第2四半期累計期間)

(単位：千円)

	当第2四半期累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
売上高	1,240,897
売上原価	390,480
売上総利益	850,416
返品調整引当金戻入額	312,814
返品調整引当金繰入額	363,436
差引売上総利益	799,794
販売費及び一般管理費	408,965
営業利益	390,829
営業外収益	
受取利息	84
中小企業倒産防止共済前納減額金	66
営業外収益合計	150
営業外費用	
支払利息	894
株式公開費用	7,728
営業外費用合計	8,622
経常利益	382,356
税引前四半期純利益	382,356
法人税等	131,874
四半期純利益	250,482

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	当第2四半期累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	
税引前四半期純利益	382,356
減価償却費	249
賞与引当金の増減額 (△は減少)	1,658
返品調整引当金の増減額 (△は減少)	50,622
受取利息及び受取配当金	△84
株式公開費用	7,728
支払利息	894
売上債権の増減額 (△は増加)	△275,238
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△16,051
仕入債務の増減額 (△は減少)	24,458
未払金の増減額 (△は減少)	51,249
その他	11,127
小計	238,971
利息及び配当金の受取額	84
利息の支払額	△894
法人税等の支払額	△172,076
営業活動によるキャッシュ・フロー	66,084
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	
有形固定資産の取得による支出	△1,410
敷金及び保証金の差入による支出	△27,506
投資活動によるキャッシュ・フロー	△28,916
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	
長期借入れによる収入	50,000
長期借入金の返済による支出	△66,635
株式公開費用の支払額	△3,593
財務活動によるキャッシュ・フロー	△20,228
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	16,939
現金及び現金同等物の期首残高	712,252
現金及び現金同等物の四半期末残高	729,191

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

(公募による新株の発行)

当社株式は、平成26年9月26日に株式会社東京証券取引所の承認を得て、平成26年10月30日に東京証券取引所マザーズに上場しております。当社は上場にあたり、平成26年9月26日及び平成26年10月10日開催の取締役会において、下記のとおり公募による新株式の発行を決議し、平成26年10月29日に払込が完了いたしました。

この結果、決算短信提出日現在において資本金は693,100千円、発行済株式数は4,675,000株であります。

- ①募集方法 : 一般募集 (ブックビルディング方式による募集)
- ②発行する株式の種類及び数 : 普通株式 675,000株
- ③発行価格 : 1株につき 2,200円  
一般募集はこの価格にて行いました。
- ④引受価額 : 1株につき 2,024円  
この価額は当社が引受人により1株当たりの新株式払込金として受取った金額であります。なお、発行価格と引受価額との差額の総額は、引受人の手取金となります。
- ⑤発行価額 : 1株につき 1,785円  
この金額は会社法上の払込金額であり、平成26年10月10日開催の取締役会において決定された金額であります。
- ⑥資本組入額 : 1株につき 1,012円
- ⑦発行価格の総額 : 1,485,000千円
- ⑧引受価額の総額 : 1,366,200千円
- ⑨資本組入額の総額 : 683,100千円
- ⑩払込期日 : 平成26年10月29日
- ⑪資金の使途 : 新規サービスの開発及び保守資金、オフィスの移転費用、既存事業の拡大に係る運転資金に充当する予定であります。

(第三者割当による新株の発行)

当社は、平成26年9月26日及び平成26年10月10日開催の取締役会において、下記のとおり大和証券株式会社が行うオーバーアロットメントによる当社株式の売出し(貸株人から借入れる当社普通株式168,700株の売出し)に関連して、同社を割当先とする第三者割当による新株式の発行を決議しております。

- ①発行する株式の種類及び数 : 普通株式 168,700株
- ②割当価格 : 1株につき 2,024円
- ③資本組入額 : 1株につき 1,012円
- ④割当価格の総額 : 341,448千円
- ⑤資本組入額の総額 : 170,724千円
- ⑥払込期日 : 平成26年12月2日
- ⑦割当先 : 大和証券株式会社
- ⑧資金の使途 : 新規サービスの開発及び保守資金、オフィスの移転費用、既存事業の拡大に係る運転資金に充当する予定であります。
- ⑨大和証券株式会社は、シンジケートカバー取引により取得した株式数については、割当に応じない予定でありますので、その結果、失権により本件第三者割当増資における最終的な発行数が減少する、又は発行そのものが全く行われない場合があります。